

平成28年度

# 事業報告書

学校法人 大同学園



## 目次

## 1. 学校法人の概要

(1) 学校法人大同学園創設の経緯	1 頁
(2) 沿革	1
(3) 設置する学校の理念と教育目標	3
(4) 設置する学校・学部・学科等	4
(5) 学校・学部・学科等の定員、学生生徒数の状況	4
(6) 役員・評議員・教職員の概要	5
(7) 学園組織構成図	6

## 2. 事業の概要

(1) 事業の概要: 大学	7
---------------	---

## 当該年度の主な事業の目的・計画・進捗状況等

【全般】	①学科・専攻の再編	7
	②入学者数	7
【教育・研究活動の特徴】	①全学的なPBL科目の実施開始	8
	②FD活動	8
	③学習支援の拡大による教育効果	8
	④多目的ホール(学生ホール)	8
	⑤新入生オリエンテーション合宿	8
	⑥食の支援の拡充	8
	⑦日本福祉大学および大同大学の連携に関する協定の締結について	8
	⑧障がい学生支援ガイドラインのサポート体制の施行	9
	⑨就職活動支援	9
	⑩資格取得講座の開講	9
	⑪ラーニングcommons施設としての図書館の利用	9
【学生の活動実績(強化クラブ・その他クラブ)】		10
【国際交流】		10
【産学連携】	①受託研究・共同研究実績	10
	②地域貢献	10

(2) 事業の概要: 高校	11
---------------	----

【全般】		11
【教育活動】	①入学者	11
	②情報教育環境整備	11
	③生徒指導の強化	11
	④ボランティア活動及び公開講座	11
	⑤就職支援	11
	⑥課外活動成績	11

(3) 施設等の状況	12
------------	----

## 3. 財務の概要

(1) 当該年度の財務状況	①教育活動収支差額	13
	②基本金組入前収支差額	13
	③固定資産取得額	13
	④フリーキャッシュフロー	13

(2) 主な財務指標の推移	14
---------------	----

(3) その他 有価証券・借入金・寄付金・関連当事者等との取引の状況	15
------------------------------------	----

資金収支計算書	16
活動区分資金収支計算書	17
事業活動収支計算書	18
貸借対照表	19
財産目録	20

## 1. 学校法人の概要

### (1) 学校法人大同学園創設の経緯

本学園は、大同製鋼(株)(現在の大同特殊鋼(株))第4代社長下出義雄による昭和14年(1939)の「財団法人大同工業教育財団」創設、「大同工業学校」開校に始まります。

下出義雄は、(株)電気製鋼所初代社長下出民義の長男で、大正6年(1917)に(株)電気製鋼所取締役就任。企業経営に携わるも、教育への情熱はさかんで、父に協力して大正12年(1923)に東邦商業学校の設立にかかわりました。昭和6年(1931)に(株)大同電気製鋼所第4代社長に就任してからも教育に対する情熱はますます高まり、「私は今まで物を生産することに全力を注いできたが、これからは技術者を養成して社会、国家に貢献したい」との信念のもと、工業学校設立を決意しました。昭和13年(1938)10月の大同製鋼(株)定期株主総会で、工業学校設立に関する寄附行為について承認を得て、同年11月文部省(現在の文部科学省)に申請。昭和14年(1939)1月に「財団法人大同工業教育財団」が設立され、同月、「産業の要請に応える有用な技術者を養成する」ことを建学の精神とする「大同工業学校」の設置認可を経て、同年4月に甲種工業学校として開校し、今日にいたる学園の歴史がスタートしました。

### (2) 沿革

#### ・大同大学大同高等学校の沿革(概略)

昭和14年4月に開校した大同工業学校はその後、昭和23年3月に新制高等学校に認可され大同工業高等学校となり、また、昭和48年4月には普通科を新設しました。なお、校名につきましては、昭和51年に大同高等学校に、平成14年に大同工業大学大同高等学校に、さらに平成21年に大同大学大同高等学校に変更しております。

#### ・大同大学の沿革(概略)

中部地区の産業界[大同特殊鋼(株)、中部電力(株)、名古屋鉄道(株)など31社]の強い要望に応え、昭和37年に大同工業短期大学を設置しました。その2年後の、昭和39年には、同短期大学の学生募集を停止するとともに、機械工学科と電気工学科の2学科からなる大同工業大学を設置しました。以来、社会の要請、時代のニーズを反映し、学科増設によって工学部の充実を図りつつ、平成2年には大学院を開設、平成14年には情報学部情報学科を設置し、現在は、2学部7学科、大学院2研究科6専攻としました。なお、校名につきましては、平成21年に大同工業大学から大同大学に変更しております。

高等学校の沿革

(1939)	昭和14年	1月	財団法人大同工業教育財団を設立
		4月	財団法人大同工業教育財団により大同工業学校を開校
(1948)	昭和23年	3月	新制高等学校に認可され大同工業高等学校となる
(1961)	昭和36年	7月	学校法人大同学園と改称
(1962)	昭和37年	4月	知多市岡田に知多分校開校
(1973)	昭和48年	4月	普通科を増設
(1976)	昭和51年	3月	大同高等学校に校名を変更
(1997)	平成9年	4月	男女共学になる
(2002)	平成14年	4月	大同工業大学大同高等学校に校名を変更
(2003)	平成15年	4月	名古屋校舎新キャンパス完成
(2004)	平成16年	4月	知多分校を名古屋校舎へ統合
(2009)	平成21年	4月	大同大学大同高等学校に校名を変更 大同グラウンドスポーツコート竣工

大学の沿革

(1962)	昭和37年	4月	大同工業短期大学を設置 機械科を置く
(1963)	昭和38年	4月	電気科を増設
(1964)	昭和39年	4月	大同工業大学を設置 機械工学科、電気工学科の2学科を置く
(1973)	昭和48年	4月	情報処理センターを開設(現、情報センター)
(1975)	昭和50年	3月	白水校舎竣工
		4月	建設工学科を増設
(1983)	昭和58年	7月	滝春校舎竣工
(1985)	昭和60年	4月	応用電子工学科を増設
(1989)	平成元年	9月	新図書館を竣工
(1990)	平成2年	4月	大学院工学研究科修士課程を設置 機械工学専攻、電気・電子工学専攻、建設工学専攻の3専攻を置く
(1995)	平成7年	4月	大学院工学研究科に博士後期課程を設置 材料・環境工学専攻を置く
(1999)	平成11年	3月	石井記念体育館(大学体育館)竣工
(2000)	平成12年	4月	産学連携共同研究センターを開設
		12月	滝春校舎新キャンパス竣工
(2001)	平成13年	4月	情報機械システム工学科、都市環境デザイン学科を増設 電気工学科を電気電子工学科に名称を変更 応用電子工学科を電子情報工学科に名称を変更 建設工学科を建築学科に名称を変更 創造製作センター・授業開発センターを開設
(2002)	平成14年	4月	情報学部情報学科を設置 エクステンションセンターを開設
(2003)	平成15年	4月	学習支援センターを開設
(2005)	平成17年	4月	大学院情報学研究科修士課程に情報学専攻を設置
		10月	燃料電池研究センターを開設
(2006)	平成18年	3月	滝春校舎にS棟を竣工
		4月	工学部ロボティクス学科を増設 大学院工学研究科修士課程に建築学専攻、都市環境デザイン学専攻の2専攻を増設
(2007)	平成19年	4月	研究支援センターを開設
(2008)	平成20年	2月	においかおり研究センター開設
		4月	情報学部に情報システム学科、情報デザイン学科を増設
(2009)	平成21年	4月	大同大学に校名を変更
(2010)	平成22年	4月	工学部に総合機械工学科を増設
(2010)	平成22年	11月	滝春校舎にゴビーステージ竣工
(2012)	平成24年	4月	情報学部に総合情報学科を増設

## (3) 設置する学校の理念と教育目標

## ・大同高等学校の教育目標

## ■教育目標

## 明朗闊達で、確かな学力を備え、社会で有為な人間の育成

- (1) 明朗で闊達、自律的で品位ある人間を育成する。
- (2) 確かな学力を備えた人間を育成する。
- (3) 強い責任感をもち、社会で有為な人間を育成する。
- (4) 他の人々や自然と共生することが出来る人間を育成する。
- (5) 生徒一人ひとりの行き方を視野に入れた進路指導を推進する。

## ■教育信条

## 汗と愛

自己に課せられた使命を自覚し、勤労精神を育成すると共に如何なる立場においても、人を尊び人を愛し、融和一致し得る人格の育成を図る。

## 質実

質実で純潔、併せて清新明朗な気風を養い、国家及び社会の有為な人物となるように努める。

## 中庸

健全な精神と正しい判断力を持ち、左右何れにも偏せず中庸の道を堅持し、良い社会人となるように努める。

## 創意

工業技術の錬磨と独創的な研究に向かって日夜精進する。

## 責任

自主的かつ積極的に行動し、責任を重んずる人物となるよう努める。

## ■指導の方針「大同三訓」

時を守る 場を整える 礼を尽くす

## ・大同大学の理念・教育目標

## ■理念

## 実学主義

- ・大同大学は実学の教育と研究を通じて産業と社会に貢献します

## ■教育目標(学位授与の方針)

- (1) 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている
  - ・健全な倫理観に基づき、規律性をもって主体的にかつ目標を定めて行動する力、現状を分析して目的や課題を明らかにする力、コミュニケーションを通じて他者と協働する力を身につけている。
- (2) 豊かな教養を身につけている
  - ・教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ、異なる思考様式を理解する態度が備わっている。
- (3) 確かな専門性を身につけている
  - ・自らの専門分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけ、当該分野の情報・データを論理的に分析し、問題解決のために応用できる。
- (4) 豊かな創造力を身につけている
  - ・獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている

(4) 設置する学校・学部・学科等

(平成28年5月1日現在)

【大同大学大同高等学校】

課程名	学科名	摘要
全日制課程	普通科	
	機械科	
	電子情報デザイン科	

【大同大学】 所在地：名古屋市南区滝春町10番地3

学部等名	学科等名	摘要	
学部	工学部	機械工学科	
		総合機械工学科	
		電気電子工学科	
		建築学科	
		都市環境デザイン学科	平成24年度から募集停止
学部	情報学部	情報システム学科	
		情報デザイン学科	
		総合情報学科	
大学院	工学研究科	修士課程	機械工学専攻
		電気・電子工学専攻	
		建築学専攻	
		都市環境デザイン学専攻	
	博士後期課程	材料・環境工学専攻	
情報学研究科	修士課程	情報学専攻	

(5) 学校・学部・学科等の定員、学生生徒数の状況

【大同大学大同高等学校】

単位：人

課程名	学科名	平成28年5月1日現在				平成28年度 卒業生数	平成29年5月1日現在			
		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
全日制課程	普通科	240	237	720	675	217	240	231	720	679
	機械科	160	220	480	529	165	160	167	480	524
	電子情報デザイン科	80	95	240	261	71	80	72	240	261
高校計		480	552	1,440	1,465	453	480	470	1,440	1,464

【大同大学】

単位：人

学部等名	学科等名	平成28年5月1日現在				平成28年度 卒業生数	平成29年5月1日現在					
		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		入学定員	入学者数	収容定員	現員数		
学部	工学部	機械工学科	120	137	420	491	114	120	141	440	502	
		総合機械工学科	110	127	440	543	115	110	116	440	518	
		電気電子工学科	90	96	345	400	93	90	90	350	383	
		建築学科	165	197	600	717	136	165	189	620	733	
		都市環境デザイン学科	0	0	0	4	2	0	0	0	1	
	小計		485	557	1,805	2,155	460	485	536	1,850	2,137	
	情報学部	情報システム学科	120	137	450	557	114	120	141	460	555	
		情報デザイン学科	110	119	410	472	103	110	119	420	475	
		総合情報学科	75	84	300	307	71	75	86	300	317	
		小計		305	340	1,160	1,336	288	305	346	1,180	1,347
学部計		790	897	2,965	3,491	748	790	882	3,030	3,484		
大学院	工学研究科	修士課程	機械工学専攻	8	17	16	31	13	8	17	16	34
		電気・電子工学専攻	6	1	12	8	7	6	2	12	3	
		建築学専攻	5	3	10	8	5	5	0	10	3	
		都市環境デザイン学専攻	5	0	10	6	6	5	4	10	4	
	小計		24	21	48	53	31	24	23	48	44	
	博士後期課程	材料・環境工学専攻	3	1	9	2	0	3	1	9	2	
情報学研究科	修士課程	情報学専攻	6	3	12	4	1	6	8	12	11	
大学院計		33	25	69	59	32	33	32	69	57		
大学計		823	922	3,034	3,550	780	823	914	3,099	3,541		

(6) 役員・評議員・教職員の概要 (平成29年3月31日現在)

① 役員概要

定員数… 理事 10人、監事 3人

役職名	氏名	勤務別	摘要 [主な現職]
理事長	奥村 博司	常勤	平成18年8月副理事長就任 平成19年8月理事長就任
常務理事	高村 誠一	常勤	平成26年8月理事就任 平成27年8月常務理事就任[大同学園法人本部長]
理事	澤岡 昭	常勤	平成11年4月理事就任[大同大学長]
	服部 保孝	常勤	平成27年4月理事就任[大同大学大同高等学校長]
	大矢 郁夫	常勤	平成20年8月理事就任[大同学園法人副本部長]
	佐藤 達生	常勤	平成26年4月理事就任[大同大学副学長]
	小澤 正俊	非常勤	平成26年8月理事就任[大同特殊鋼(株)相談役]
	今井 正	非常勤	平成28年8月理事就任[新日鐵住金(株)執行役員]
監事	高木 英樹	非常勤	平成26年8月理事就任[名古屋鉄道(株)代表取締役副社長]
	三田 敏雄	非常勤	平成21年8月監事就任[中部電力(株)相談役]
	板摺 康宏	非常勤	平成28年8月監事就任[大同マシナリー(株)代表取締役社長]
	今井 建一	非常勤	平成27年8月監事就任

② 評議員概要

定員数… 21人

選任区分	氏名
職員	井上 孝司
	大嶋 和彦
	鹿島 孝之
	川原 雅寛
	佐藤 達生
	神保 睦子
	高橋 鉄男
	水澤 富作
	山田 博之

選任区分	氏名
卒業生	三宅 洋
	下郷 正二
学生・生徒保護者	鬼頭 和則
	平岩 康夫
学識経験者	荒川 克彦
	猪村 美之
	奥村 博司
	熊澤 宏昭
	田中 清貴
	戸松 茂行
	盛田 國四郎
	水野 伸哉

③ 教職員の概要

(平成28年5月1日現在)

【大同大学大同高等学校】

区分	高校計	
教員	校長	1
	教頭	3
	教諭	61
	講師	5
	計	70

区分	高校計
職員	8

単位:人

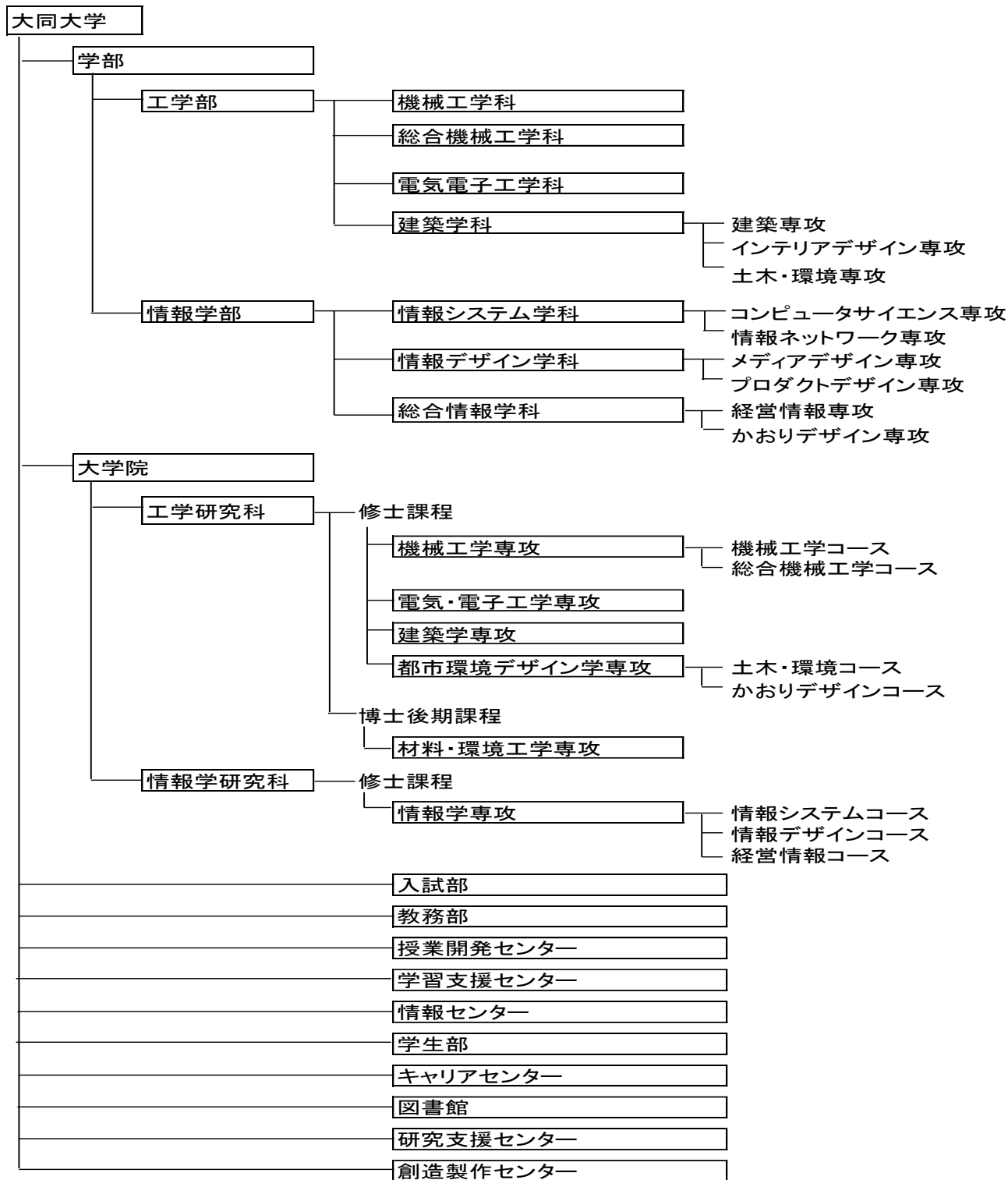
【大同大学】 学長: 澤岡 昭

単位:人

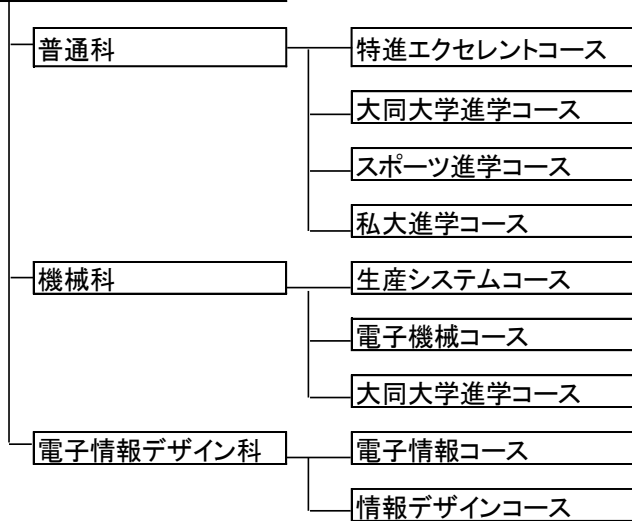
区分	学長	副学長	工学部	情報学部	教養部	大学計	
教員	学長	1				1	
	副学長		3			3	
	教授			29	18	10	57
	准教授			11	10	10	31
	講師			7	5	2	14
助手						0	
計	1	3	47	33	22	106	

区分	大学計
職員	75

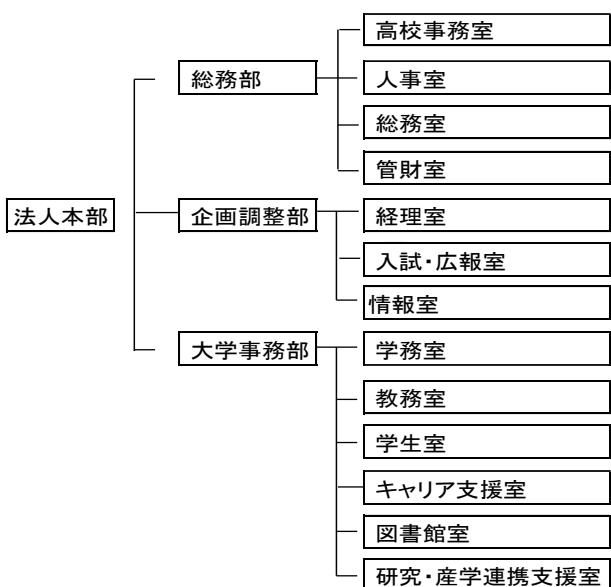
(7) 学園組織構成図 (平成29年3月31日現在)



大同大学大同高等学校



学園事務組織





## 2. 事業の概要

### (1) 大同大学

本学は、「産業と社会の要請に応える人材の養成」という建学の精神の下、大学の理念を「実学主義」と掲げ、実学の教育と研究を通じて産業と社会に貢献しています。特に近年では、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の養成にも意識的に取り組み、社会が求める人材を送り出しています。

#### 【全般】

##### ①学科・専攻の再編

インターネットや携帯電話の普及とともに到来した情報化社会により、わが国の産業構造は急速に大きく変貌を遂げました。本学はこうした社会変化に応えるため、平成14年に情報学部情報学科(3専攻体制)を設置し、人材育成に邁進して参りましたが、今日に至る情報化技術の更なる革新や情報コンテンツのデザイン分野への浸透などの社会ニーズの拡大に合わせ、平成20年4月に同学科を、コンピュータ組込システムや情報通信システムに関する技術を主な学域とする「情報システム学科(コンピュータサイエンス専攻・情報ネットワーク専攻)」と映像や音楽のコンテンツ制作及びプロダクトデザインに関する技術を主な学域とする「情報デザイン学科(メディアデザイン専攻・プロダクトデザイン専攻)」の2学科4専攻に改組しました。また、情報学分野での社会ニーズの広がりが更に拡大していることを踏まえ、平成24年4月には、「人に関する情報」と「社会に関する情報」を総合的に学ぶことができる「総合情報学科」を情報学部開設いたしました。一方、工学部においては、我が国のものづくりにおける国際競争力が喫緊の課題となっていることに対応するため、機械工学科及びロボティクス学科の学問領域を再構築し、平成22年4月に「機械工学科」及び「総合機械工学科」へと改組しました。また、平成24年4月には、「都市環境デザイン学科」の募集を停止し、「建築学科(土木・環境専攻)」に改組しました。

平成28年度より工学部及び情報学部の収容定員を変更しました。大同大学は、今後も新たな社会ニーズに応えるべく、新学問域への探求を継続していきます。

##### ②入学者数

平成29年4月は学部学生883名(再入学1名含む)、大学院学生32名、合計915名の新入生が入学しました。なお、平成29年度学部学生の入学生は平成28年度入学生に比較して14名の減少でしたが、出願延人数においては、平成28年度対比10.6%の増加でした。

## 【教育・研究活動の特徴】

### ①全学的なPBL科目の実施開始

平成28年度入学生から全学的にPBL (Project/Problem-Based Learning: 課題/問題解決型学習)型の授業科目を設置しました。これらの授業科目の中でも、情報学部1年次生(335人)を対象に社会人基礎力養成を目的とした「社会実践1」の授業においては、いくつかのチームに分かれ「課題発見」「課題解決」に関して議論を行い、その結果を「発表」といってを繰り返し実施し、実際の社会で必要となるチーム作業に近い取組を実施しました。

引き続き平成29年度に開講される「社会実践2」では、企業からの課題提示に対し、チームで課題解決に取り組み、プレゼンを行い、企業の人材開発担当者の評価を受ける、より実践的な授業を実施します。

### ②FD活動

授業形態や受講者に応じて多様な手法を取り入れる授業を行うことにより、学生が自主的に考えて学ぶことの習慣づけを促すことができるアクティブラーニング型授業の導入を推進しています。外部講師を招聘し、平成27年度は概論として「授業をアクティブ化していくためには」、平成28年度は実践を含めた「アクティブラーニングの実践例」をテーマに講演会を開催しました。専任教員だけでなく非常勤講師も12名参加し、アクティブラーニング型授業の導入に対する関心の高さを感じることができました。年4回発行する『授業批評』内でも、講演会の内容を振り返るとともに、「シリーズ・アクティブラーニング」と銘打って、本学教員の様々な実践や知見を継続的に紹介しています。

### ③学習支援の拡大による教育効果

高校で数学、物理、化学、英語等を十分に履修する機会がなかった学生を中心に、基礎学力の定着をサポートする組織として学習支援センターを設置しています。

数学・英語・物理・化学の専属学習支援教員と事務職員を配して、学生の習熟度向上を目指しています。平成28年度の受講者数(延べ人数)は7,117名となりました。

### ④多目的ホール(学生ホール)

平成28年11月に、G棟を改修し多目的ホールがオープンしました。テーブルを自由に組み合わせて、さまざまなアクティビティ(食事、学習、ミーティング等)に対応できるスペースを新設しました。ゆったりと過ごせるソファエリア、1人で、集中して思考やゆったり作業することが可能なエリアもあります。

また、手軽に軽食が購入できるファミリーマートの物販機(無人コンビニ)も設置しました。

### ⑤新入生オリエンテーション合宿

平成28年度は、平成27年度参加の機械工学科と情報デザイン学科に加え、総合機械工学科と建築学科建築専攻・インテリアデザイン専攻、総合情報学科経営情報専攻の新入生(総勢566名)が参加しました。この合宿は、一泊二日の共同生活を通して、学生同士のコミュニケーションの向上や、今後の大学生活をより充実したものにするを目的として実施しています。平成28年度は4月7日(木)-8日(金)と8日(金)-9日(土)の2グループに分かれて行いました。本年度参加学生のアンケートの結果では66.9%の学生がこの合宿を「有意義であった」と答え、28.9%の学生が「有意義とまではいかないが楽しかった」との回答を得ました。

### ⑥食の支援の拡充

100円朝食は、後援会に援助いただき実施しています。平成27年度は1日60食限定でしたが、学生や後援会からの要望もあり、平成28年度からは提供時間を短縮したうえで、時間内であれば食数無制限にしました。その結果、1日平均99食、1日の最高提供数は136食となりました。

また、昼食時の混雑を解消する目的から同様に後援会援助のもと、平成28年度から日替わりバランス弁当を300円で販売を開始しました。徐々に口コミで評判が広がり、販売開始当初の1日50食から今では100食を販売しています。

### ⑦日本福祉大学および大同大学の連携に関する協定の締結について

日本福祉大学は平成27年4月、愛知県東海市(名鉄太田川駅)に東海キャンパスを開設しました。同大は名鉄沿線に位置し容易に双方の往来が可能となったことから、それぞれの大学が有する資産の共同利用や人事交流等を図ることを目的として、同大と連携に関する協定を締結しました。その一環で、クラブ交流も実施しています。

#### ⑧障がい学生支援ガイドラインのサポート体制の施行

平成28年4月「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号)」の施行に伴い、障がい学生支援のガイドラインを設け、障がいがあってもその能力を最大限に発揮できる環境を整えました。

#### ⑨就職活動支援

学生の就職活動への支援は、4年一貫の就職支援プログラム(低学年次学生[1・2年次生]、3年次学生および4年次学生に大別)を教育課程外にて策定し、実施しています。

低学年次(1・2年次学生)では、各学期(計4学期)において、「就職力アップ 세미나」を開講します。このセミナーは、社会で求められる重要な力の一つである「コミュニケーション力」(読む・書く・聴く・話す)について4学期に亘って学ぶことをベースに、進路決定までの4年間の流れを理解したうえで、低学年次からできる就職活動準備を自ら定めることにより、職業観の醸成を目指します。

3年次学生では、この時期を本格的な就職準備活動期と位置づけ、「自己を知る」、「業界・企業を知る」、「就職活動のテクニックを知る」ことを基軸とした年間11回の就職ガイダンスを行います。またこれらと並行して、少人数による「面接・グループディスカッション対策」や「自己紹介書の書き方」等のフォローアップ講座を開催します。さらに、3年次3月には、企業を招いて学内での大規模な企業説明会を開催します。平成28年度は、3日間で約530社の企業に参加いただきました。これは、平成27年度実績である2日間、360社を大幅に上回る規模になりました。

4年次学生では、3年次の末から既に始まっている就職活動期の支援として、各学部学科専攻の就職指導担当教員及び指導教員がキャリアセンター職員と連携して学生の就職指導や進路相談を行っています。これらの指導・相談履歴や企業等受験履歴などは、「D-act(就職活動支援サイト)」に集約しており、教職員間の情報の共有や迅速な支援を行える体制を整えています。平成28年度の就職内定率は、以上のような就職支援の強化もあり、リーマンショック以降最高の97.7%(平成29年3月31日現在)となりました。

#### ⑩資格取得講座の開講

平成28年度は、就職活動支援講座を2講座、資格取得支援講座を41講座、合計43講座を教育課程外の講座として開講しました。

就職活動支援講座は、公務員試験対策講座2講座を開講しました。また、資格取得支援講座では、国家資格に関する講座18講座、民間資格に関する講座17講座、公的資格に関する講座5講座、語学資格に関する講座1講座を開講しました。

なお、以上の資格取得講座の受講料の一部や受験料の一部を本学後援会の援助を受けて学生に返還しています。

#### ⑪ラーニングコモンズ施設としての図書館の利用

ラーニングコモンズ施設として、学習閲覧室、グループ閲覧室、グループAV室を設置しています。

学習閲覧室には、3人掛けティアテーブル12台、荷物棚付き椅子36脚、ホワイトボード12台を設置。グループ閲覧室には、4人掛けテーブル4台、荷物棚付き椅子16脚、ホワイトボード4台を設置し、主にアクティブラーニング型授業の授業時間外の協同グループ学習に対応しています。グループ学習ができるスペースであることを強調して案内した事と、机・椅子の配置換えが容易な家具に変更した事により、利用率は上がり、学生に人気のスペースとなっています。

また、グループAV室は、メモ台と荷物棚付きの椅子と、ホワイトボード2台を設置し、プロジェクターによる映像投影を可能にした定員30名の施設であり、卒業研究発表の練習等に利用されています。

## 【学生の活動実績(強化クラブ・その他クラブ)】

平成28年度の主な成績は以下のとおりです。

## ・強化クラブ

<男子ハンドボール部>

東海学生ハンドボール春季リーグ 優勝

東海学生ハンドボール秋季リーグ 優勝

西日本学生ハンドボール選手権大会 準優勝

全日本学生ハンドボール選手権 第3位

全日本学生ハンドボール選手権大会 出場

<女子ハンドボール部>

東海学生ハンドボール春季リーグ 準優勝

東海学生ハンドボール秋季リーグ 準優勝

<バレーボール部>

東海学生バレーボールリーグ春季戦 6位

東海学生バレーボールリーグ秋季戦 5位

ビーチバレーボール・ジャパン・カレッジ ベスト4(全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会)

## ・その他クラブ

<ロボット研究部>

ロボットファイト17 優勝

小型ロボット競技会 BRAVE OVER 優勝

<自動車部>DUダートトライアル 団体1位・個人1位

<レーシングカート部>第21回 L.I.K. 全国学生カート選手権 総合優勝

<フィギュアスケート研究会>第89回 日本学生氷上競技選手権大会 出場

## 【国際交流】

韓山師範学院との学生交換留学

韓山師範学院は、中国の広東省潮州市にある110年の歴史を有する総合大学です。教員間の研究上の交流を契機に、同大学との大学間交流に関する協議を重ね、平成24年4月に学術交流協定、平成25年5月に学生交流に関する覚書を締結しました。

平成28年9月2日(金)から9月16日(金)まで、本学学生20人と引率教職員2人が同大学に短期留学しました。また11月13日(日)から11月26日(日)までは、韓山師範学院から大学生10人と引率教員2人を受け入れました。

## 【産学連携】

## ①受託研究・共同研究実績

本学では、「研究支援センター」を設置し、多岐にわたる産学官金の連携・交流を通じて、社会の要請に応えるべく、公的研究機関・自治体及び民間企業との共同研究等を積極的に推進しています。平成28年度の外部研究資金の導入総額は約87百万円で、そのうち公的競争資金は32百万円、企業との共同研究及び受託研究は、それぞれ23件、約30百万円、及び、5件、約11百万円です。

## ②地域貢献

本学の研究資源を用いた地域への貢献を目的として、平成28年度から、他大学・企業等とともに愛知県の「知の拠点あいち 重点研究プロジェクト」の「次世代ロボット社会形成技術開発プロジェクト(ロボット分野) 鳥獣害・災害対応ドローンに関する研究開発」、及び、「モノづくりを支える先進材料・加工技術開発プロジェクト(難加工・高機能部材分野) 自動車軽量化のための熱可塑性炭素繊維強化樹脂の加工技術開発」に参画しています。地域の安全・安心確保への貢献、及び、市場拡大が想定されている航空機・次世代自動車分野における軽量強化部材加工ビジネスへの貢献が期待されています。

## (2) 大同大学大同高等学校

### 【全般】

平成28年度は、「授業見学等を活用して、生徒が主体的に学ぶ、活力ある学校作りを推進する」との重点目標を学校として掲げ、アクティブラーニング型授業の研修を行うなどして、授業改善に努めました。

また、本校では普通科に国公立難関大学を目指す特進エクセレント、併設校である大同大学への進学を目指す大同大学進学、スポーツ進学、私大進学という4コースを展開するとともに、機械科及び電子情報デザイン科では生産システム、電子機械、大同大学進学、電子情報、情報デザインの5コースを展開し、生徒の進路希望の実現に教職員一丸となり取り組みました。結果として、就職率は100%を堅持し、進学実績は国公立大学合格者9名(内浪人1人)のほか、立命館大学、南山大学という難関私立大学へも合格者を出すことができました。

### 【教育活動】

#### ①入学者

平成28年度の入学者は普通科237名、工業科315名の計552名と大幅な定員超過となったため、工業科の入試基準を見直し、平成29年度の入学者は普通科231名、工業科239名の計470名となりました。

両科とも学則定員を若干割り込むものの、1クラスあたりの生徒数は35～40人で理想的な人数になりました。

#### ②情報教育環境整備

本校の情報教育環境は、長期計画に基づいて整備を行っており、平成28年度は実習室パソコンを最新型に更新しました。

#### ③生徒指導の強化

生徒の生活指導の面では、情操を高めることに主眼をおき、「時を守る 場を整える 礼を尽くす」を大同三訓として設定し、生徒の行動指針としています。

「笑顔であいさつ、さわやか大同生」を合言葉としてあいさつ・マナー・モラル向上運動を行い、「さわやか大同生」推進プロジェクトと銘打って身だしなみを整えるために「イエローカード制」を導入しています。あいさつや服装についてはおおむね良好でしたが、遅刻者がやや増加しており、来年度にむけての課題となりました。

#### ④ボランティア活動及び公開講座

年間を通じて学校を挙げて実施している清掃ボランティア活動によって、身近な環境への関心を深め、地域と共生できる学校づくりを進めています。さらに、中学校や地域との共生を目指して、ニーズの高いICT講座、パソコン講座等を引き続き積極的に展開しています。

#### ⑤就職支援

平成28年度も学校斡旋就職率100%を達成しました。数年に亘る100%維持は全国でも極めて稀なケースで、生徒の就職への意欲及び本校卒業生の社会での評価の高さがプラスに作用しています。

#### ⑥課外活動成績

インターハイにソフトテニス部(個人戦1ペア)剣道部(女子個人1名)が出場しました。また男子バレーボール部が春の全国私学大会に出場、剣道部、女子ハンドボール部が全国選抜大会に出場しました。中でも女子ハンドボール部は3位という素晴らしい成績をおさめました。

文系クラブでは、吹奏楽部が日本管楽合奏コンテスト全国大会に出場しました。

## (3) 施設等の状況

## ① 主な現有施設設備の状況

所在地	施設等	面積等 (m <sup>2</sup> )				取得価額 (千円)	帳簿価額 (千円)
		大学専用	共用	高校専用	計		
愛知県名古屋市	校舎敷地	39,484.57		20,267.21	59,751.78	2,179,136	
	運動場敷地	13,767.38	16,061.85		29,829.23	2,222,891	
	艇庫敷地	1,069.43			1,069.43	62,100	
	駐車場敷地	1,359.46			1,359.46	6,169	
愛知県知多市	校舎・運動場敷地	31,668.97			31,668.97	75,742	
愛知県東海市	運動場敷地等	20,890.00			20,890.00	885,000	
	土地 計	108,239.81	16,061.85	20,267.21	144,568.87	5,431,038	5,431,038
愛知県名古屋市	校舎等:滝春キャンパス	41,515.22	102.63		41,617.85	8,786,841	
	図書館:滝春キャンパス	3,589.94			3,589.94	995,628	
	体育館:滝春キャンパス	3,387.77			3,387.77	688,236	
	校舎等:白水キャンパス	7,686.89			7,686.89	1,543,037	
	校舎等:大同町			12,898.89	12,898.89	2,692,649	
	体育館:大同町			5,558.38	5,558.38	780,685	
愛知県知多市	校舎・柔剣道場ほか	3,940.30			3,940.30	616,420	
その他	ゼミナーハウスほか	807.49			807.49	121,863	
	建物 計	60,927.61	102.63	18,457.27	79,487.51	16,225,359	8,571,471
	構築物				434点	1,674,227	613,669
	図書				277,313冊	1,508,727	1,508,727
	教具、校具および備品				13,370点	4,362,143	1,064,635
	車輛				10台	87,879	20,628

## ② 主な施設設備の取得改善状況

単位:百万円

大学	… G棟改修工事	42
	… 滝春第2グラウンド防球ネット改修工事	11
	… 光波距離計	19
	… ワイヤカット放電加工機	10
	… アクティブラーニング関連設備	28
	… 講義室視聴覚設備(プロジェクター)の更新	11
高校	… PC更新	12
	… 男子更衣室等改修工事	6

### 3. 財務の概要

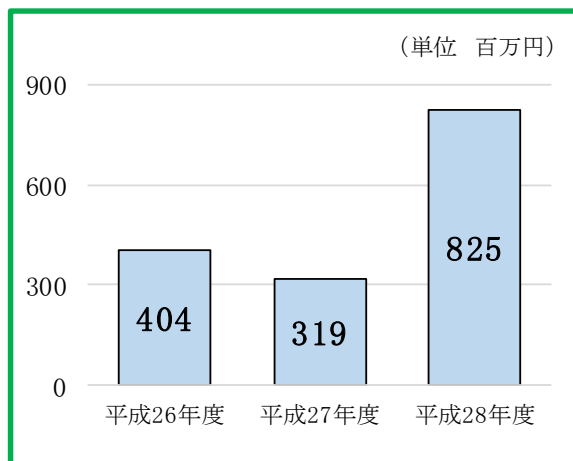
#### (1) 当該年度の財務状況

平成28年度決算

(単位 百万円)

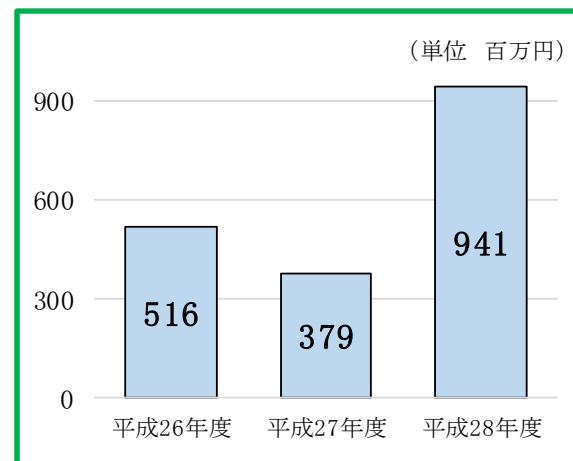
	H28年度	前年度比増減
①教育活動収支差額	825	158.6%
②基本金組入前収支差額	941	148.3%
③固定資産取得額	886	75.4%
④フリーキャッシュフロー	583	14.1%

#### ① 教育活動収支差額の推移



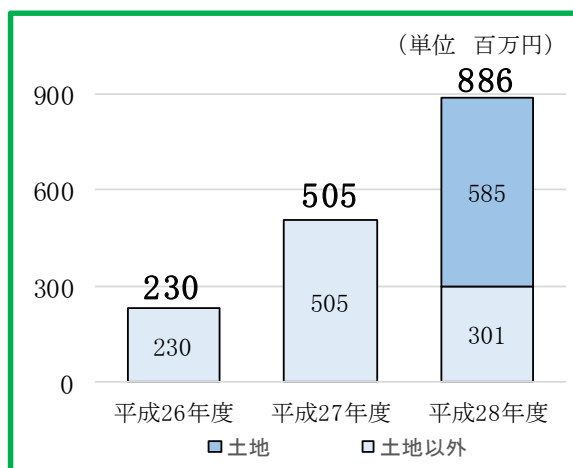
教育活動収支差額は、前年度比158.6%増加し825百万円となりました。主な要因は、大学・高校ともに入学者数増加による学納金収入の増加、経常経費の減少、大型投資に係る一時費用の減少によります。

#### ② 基本金組入前収支差額の推移



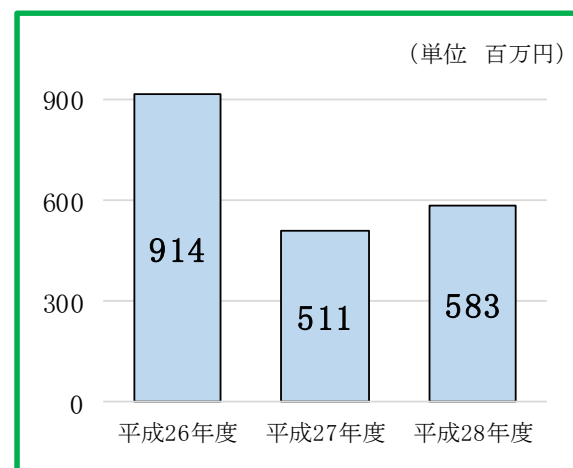
基本金組入前収支差額は、前年度比148.3%増加し941百万円となりました。主な要因は、教育活動収支差額の増加、施設設備寄付金の増加による特別収入の増加があります。また、資産の除却は前年度より減少していません。

#### ③ 固定資産取得額の推移



固定資産取得額は、前年度比75.4%増加し、886百万円となりました。主な要因は、土地の取得となりますが、大型投資に係る費用については前年度より149百万円の減少となります。主な取得資産は、空調設備の更新やアクティブラーニングのための校舎改修にあたります。

#### ④ フリーキャッシュフローの推移



フリーキャッシュフローは、前年度比14.1%増加し、583百万円となりました。土地取得に要する支出がありました。大型投資に係る費用および経常経費の減少により、前年度よりフリーキャッシュフローは増加となっております。

## (2) 主な財務指標の推移

(単位 百万円)

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
事業活動収支計算書	収入	学生生徒等納付金	4,906	5,049	5,028	4,964	5,149	
		経常費等補助金	973	724	874	857	932	
		退職金財団交付金収入	194	161	190	261	175	
		その他	355	398	347	259	264	
	支出	人件費	3,481	3,547	3,584	3,473	3,492	
		退職金	224	161	195	262	195	
		教育研究経費・管理経費支出	2,097	2,294	2,255	2,286	2,008	
		教育活動収支差額	624	331	406	319	825	
	貸借対照表	資産	経常収支差額	692	411	504	442	945
			基本金組入前収支差額	661	504	516	379	941
当年度収支差額			661	183	454	379	268	
フリーキャッシュフロー			1,294	594	914	511	583	
貸借対照表	資産	有形固定資産	17,914	17,708	17,201	16,947	17,210	
		特定資産	3,851	3,851	3,851	3,851	3,850	
		その他の固定資産	2,015	4,390	3,671	3,689	3,063	
		流動資産	6,434	4,539	6,100	6,656	7,837	
		総資産	30,214	30,488	30,823	31,143	31,960	
	負債	固定負債	2,141	1,919	1,796	1,680	1,578	
		流動負債	2,812	2,804	2,746	2,804	2,782	
		総負債	4,953	4,723	4,542	4,484	4,360	
		基本金	29,306	29,501	29,458	29,203	29,850	
		繰越収支差額	△ 4,045	△ 3,736	△ 3,177	△ 2,544	△ 2,249	
純資産の部合計	25,829	25,765	26,281	26,659	27,600			

(単位 百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
人件費比率	57.0%	57.8%	57.8%	57.8%	55.5%
学生生徒等納付金比率	75.5%	78.7%	76.9%	76.8%	77.6%
教育活動収支差額比率	9.7%	5.2%	6.3%	5.0%	12.7%
経常収支差額比率	10.7%	6.4%	7.7%	6.8%	14.2%
事業活動収支差額比率	10.1%	7.7%	7.8%	5.8%	14.1%
有形固定資産構成比率	59.3%	58.1%	55.8%	54.4%	53.9%
特定資産構成比率	12.7%	12.6%	12.5%	12.4%	12.1%
純資産構成比率	83.6%	84.5%	85.3%	85.6%	86.4%
流動比率	228.8%	161.9%	222.2%	237.4%	281.7%
負債比率	19.6%	18.3%	17.3%	16.8%	15.8%

※人件費比率	………	人件費／経常収入
※学生生徒等納付金比率	………	学生生徒等納付金／経常収入
※教育活動収支差額比率	………	教育活動収支差額／教育活動収入
※経常収支差額比率	………	経常収支差額／経常収入
※事業活動収支差額比率	………	基本金組入前収支差額／事業活動収入
※有形固定資産構成比率	………	有形固定資産／総資産
※特定資産構成比率	………	特定資産／総資産
※純資産構成比率	………	純資産／負債＋純資産
※流動比率	………	流動資産／流動負債
※負債比率	………	総負債／純資産



## (3) その他

## ① 有価証券の状況

単位:百万円

有価証券の種類	帳簿価額	時価	貸借対照表表示科目
公共債	500	518	退職給与引当特定資産、有価証券
事業債	3,920	3,944	施設整備準備特定資産、有価証券 第3号基本金引当資産
地方債	300	313	退職給与引当特定資産
ユーロ円債	2,700	2,740	施設整備準備特定資産、有価証券
株式	1	—	有価証券
合計	7,421		

注、上記時価は、当該期末時点での金利情勢や需給動向の変化による債券価額であります。  
 本学では、基本的に、満期日までの間に債券の価格が変動しても、満期日を迎えると額面金額の100%が償還される円建債券に限定し購入しております。

## ② 借入金の状況

単位:百万円

借入先	借入残高	利率	償還期限	担保等
愛知県私学振興事業財団	85	—	平成32年2月	なし
合計	85			

注、愛知県私学振興事業財団からの借入金は、「授業料軽減補助金」の交付に伴い、計上したものであり、貸借対照表上の資産勘定「未収入金」と両建てとなっております。

## ③ 寄付金の状況

単位:百万円

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
教育環境整備のための寄付金	大同大学後援会	46	学生課外活動援助金等
	大同大学同窓会	2	卒業パーティ援助
	その他	15	創立80周年記念事業寄付金等
奨学寄付金	大同特殊鋼(株)ほか	12	学術研究資金
現物寄付金	その他	9	研究用機器備品等
合計		84	

## ④ 関連当事者等との取引の状況

財務上又は事実上の関係から、法人の意思決定に関し重要な影響を及ぼすことが明らかな関連当事者及び出資会社との取引はありません。

## 資金収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

## 収入の部

(単位:千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	5,148,184	5,149,317	▲ 1,133
手数料収入	124,817	131,670	▲ 6,853
寄付金収入	72,324	75,530	▲ 3,206
補助金収入	946,123	940,642	5,481
国庫補助金収入	290,921	283,474	▲ 7,447
地方公共団体補助金収入	652,683	651,566	▲ 1,117
その他の補助金収入	2,519	5,602	3,083
資産売却収入	5,700,000	5,700,000	0
付随事業・収益事業収入	42,511	53,910	▲ 11,399
受取利息・配当金収入	118,226	119,578	▲ 1,352
雑収入	204,038	204,028	10
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,508,636	2,525,539	▲ 16,903
その他の収入	1,974,030	1,987,893	▲ 13,863
資金収入調整勘定	▲ 2,712,622	▲ 2,714,274	1,652
前年度繰越支払資金	4,075,947	4,075,947	0
<b>収入の部合計</b>	<b>18,202,214</b>	<b>18,249,782</b>	<b>▲ 47,568</b>

## 支出の部

(単位:千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,737,485	3,737,483	2
教育研究経費支出	1,256,668	1,219,824	36,844
管理経費支出	249,801	237,791	12,010
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	84,544	84,544	0
施設関係支出	713,352	713,318	34
設備関係支出	169,566	164,549	5,017
資産運用支出	5,200,000	5,200,000	0
その他の支出	50,580	45,591	4,989
(予備費)	29,816	0	29,816
資金支出調整勘定	▲ 36,361	▲ 44,689	8,328
翌年度繰越支払資金	6,746,763	6,891,372	▲ 144,609
<b>支出の部合計</b>	<b>18,202,214</b>	<b>18,249,782</b>	<b>▲ 47,568</b>

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対するすべての収入及び支出の内容、並びに支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするための計算書であります。

# 活動区分別資金収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

## 教育活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
学生生徒納付金収入	5,149,317
手数料収入	131,670
特別寄付金収入	48,698
経常費補助金収入	931,522
付随事業収入	53,910
雑収入	204,028
<b>教育活動資金収入計</b>	<b>6,519,145</b>
人件費支出	3,737,483
教育研究経費支出	1,219,824
管理経費支出	236,619
<b>教育活動資金支出計</b>	<b>5,193,926</b>
<b>調整勘定</b>	<b>47,231</b>
<b>教育活動資金収支差額</b>	<b>1,372,450</b>

## 施設整備等活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
施設設備寄付金収入	26,833
施設設備補助金収入	9,120
施設整備準備引当特定資産取崩収入	1,600,000
<b>施設整備等活動資金収入計</b>	<b>1,635,953</b>
施設関係支出	713,318
設備関係支出	164,549
施設整備準備引当特定資産繰入支出	1,600,000
<b>施設整備等活動資金支出計</b>	<b>2,477,867</b>
<b>調整勘定</b>	<b>52,207</b>
<b>施設整備等活動資金収支差額</b>	<b>▲ 789,708</b>
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>582,742</b>

## その他の活動による資金収支

(単位:千円)

科 目	金 額
有価証券売却収入	5,700,000
貸付金回収収入 他	30,216
受取利息・配当金収入	119,578
<b>その他の活動資金収入計</b>	<b>5,849,794</b>
借入金等返済支出	84,544
有価証券購入支出	3,600,000
貸付金支払支出 他	16,904
<b>その他の活動資金収支差額</b>	<b>2,148,346</b>
<b>調整勘定</b>	<b>84,336</b>
<b>その他の活動資金収支差額</b>	<b>2,232,682</b>
<b>支払資金の増減額</b>	<b>2,815,424</b>
<b>前年度繰越支払資金</b>	<b>4,075,947</b>
<b>翌年度繰越支払資金</b>	<b>6,891,372</b>

活動区分資金収支計算書は、当該年度の教育活動、施設整備等活動、財務活動を資金の流れに応じて区分表示するための計算書であります。

## 事業活動収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

## 教育活動収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	5,148,184	5,149,317	▲ 1,133
手数料	124,817	131,670	▲ 6,853
寄付金	46,518	48,892	▲ 2,374
経常費補助金	937,003	931,522	5,481
付随事業収入	42,511	53,910	▲ 11,399
雑収入	204,388	204,397	▲ 9
<b>教育活動収入計</b>	<b>6,503,421</b>	<b>6,519,708</b>	<b>▲ 16,287</b>
人件費	3,686,972	3,686,970	2
教育研究経費	1,797,018	1,758,226	38,792
管理経費	260,823	248,811	12,012
徴収不能額等	866	724	142
<b>教育活動支出計</b>	<b>5,745,679</b>	<b>5,694,731</b>	<b>50,948</b>
<b>教育活動収支差額</b>	<b>757,742</b>	<b>824,977</b>	<b>▲ 67,235</b>

## 教育活動外収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	118,226	119,578	▲ 1,352
その他の教育活動外収入	0	0	0
<b>教育活動外収入計</b>	<b>118,226</b>	<b>119,578</b>	<b>▲ 1,352</b>
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
<b>教育活動外支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>教育活動外収支差額</b>	<b>118,226</b>	<b>119,578</b>	<b>▲ 1,352</b>
<b>経常収支差額</b>	<b>875,968</b>	<b>944,556</b>	<b>▲ 68,588</b>

## 特別収支

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	40,279	44,544	▲ 4,265
<b>特別収入計</b>	<b>40,279</b>	<b>44,544</b>	<b>▲ 4,265</b>
資産処分差額	46,531	46,528	3
その他の特別支出	1,172	1,172	0
<b>特別支出計</b>	<b>47,703</b>	<b>47,700</b>	<b>3</b>
<b>特別収支差額</b>	<b>▲ 7,424</b>	<b>▲ 3,156</b>	<b>▲ 4,268</b>
予備費	24,644	0	24,644
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>	<b>843,900</b>	<b>941,400</b>	<b>▲ 97,500</b>
<b>基本金組入額</b>	<b>▲ 772,546</b>	<b>▲ 673,061</b>	<b>▲ 99,485</b>
<b>当年度収支差額</b>	<b>71,354</b>	<b>268,339</b>	<b>▲ 196,985</b>
<b>前年度繰越収支差額</b>	<b>▲ 2,543,669</b>	<b>▲ 2,543,668</b>	<b>▲ 1</b>
<b>基本金取崩額</b>	<b>26,000</b>	<b>26,000</b>	<b>0</b>
<b>翌年度繰越収支差額</b>	<b>▲ 2,446,315</b>	<b>▲ 2,249,330</b>	<b>▲ 196,985</b>

事業活動収支計算書は、当該年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、経常外の活動に対応する収入及び支出の均衡状態を明らかにするための計算書であります。

## (参考)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
事業活動収入計	6,661,926	6,683,830	▲ 21,904
事業活動支出計	5,818,026	5,742,430	75,596

## 貸借対照表

平成29年3月31日

## 資産の部

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	差 異
<b>固 定 資 産</b>	<b>24,123,310</b>	<b>24,487,245</b>	<b>▲ 363,935</b>
有形固定資産	17,210,168	16,947,410	262,758
土地	5,431,038	4,845,924	585,114
建物	8,571,471	8,762,984	▲ 191,513
構築物	613,669	643,069	▲ 29,400
機器備品	1,064,635	1,167,006	▲ 102,371
図書	1,508,727	1,502,239	6,488
車輛	20,628	26,188	▲ 5,560
特定資産	3,850,467	3,850,467	0
その他の固定資産	3,062,675	3,689,368	▲ 626,693
<b>流 動 資 産</b>	<b>7,836,565</b>	<b>6,656,206</b>	<b>1,180,359</b>
現金預金	6,891,372	4,075,947	2,815,425
その他の流動資産	945,193	2,580,258	▲ 1,635,065
<b>資産の部合計</b>	<b>31,959,875</b>	<b>31,143,451</b>	<b>816,424</b>

## 負債の部

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	差 異
<b>固 定 負 債</b>	<b>1,577,800</b>	<b>1,680,481</b>	<b>▲ 102,681</b>
長期借入金	34,062	84,711	▲ 50,649
長期預り金	8,249	9,768	▲ 1,519
退職給与引当金	1,535,489	1,586,002	▲ 50,513
<b>流 動 負 債</b>	<b>2,781,652</b>	<b>2,803,947</b>	<b>▲ 22,295</b>
短期借入金	50,649	84,544	▲ 33,895
前受金	2,525,539	2,535,447	▲ 9,908
その他の流動負債	205,464	183,955	21,509
<b>負債の部合計</b>	<b>4,359,452</b>	<b>4,484,428</b>	<b>▲ 124,976</b>

## 純資産の部

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	差 異
<b>基 本 金</b>	<b>29,849,752</b>	<b>29,202,691</b>	<b>647,061</b>
第1号基本金	29,228,285	28,555,224	673,061
第3号基本金	200,467	200,467	0
第4号基本金	421,000	447,000	▲ 26,000
<b>繰越収支差額</b>	<b>▲ 2,249,330</b>	<b>▲ 2,543,668</b>	<b>294,338</b>
翌年度繰越収支差額	▲ 2,249,330	▲ 2,543,668	294,338
<b>純資産の部合計</b>	<b>27,600,423</b>	<b>26,659,023</b>	<b>941,400</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>31,959,875</b>	<b>31,143,451</b>	<b>816,424</b>

減価償却累計額	12,079,206	11,695,693	383,513
基本金未組入額	0	0	0

貸借対照表は、「財政状態の健全性」および「必要資産の保有状況」についての計算書であります。

## 財産目録

平成29年3月31日

(単位:千円)

概要	
1.資産総額	31,959,875
内 基本財産	17,464,515
運用財産	14,495,360
2.負債総額	4,359,452
3.正味財産	27,600,423

(単位:千円)

科目	金額
土地	143,209 m <sup>2</sup> 5,424,870
建物	79,488 m <sup>2</sup> 8,571,471
構築物	430 点 611,309
図書	277,313 冊 1,508,727
教具・校具・備品	13,370 点 1,064,635
車輜	10 台 20,628
借地権	2,867 m <sup>2</sup> 16,500
電話加入権	49 口 3,055
管理用ソフトウェア	1 本 6,826
ソフトウェア仮勘定	1 本 19,965
第3号基本金引当資産	2 口 200,467
保証金	2 口 16,062
資産額	
預金・現金	6,891,372
積立金	3,650,000
その他資産	87
長期有価証券	2,871,400
有価証券	700,000
前払金	607
運用財産	
貯蔵品	73
長期貸付金	127 人 94,718
不動産：土地	1,359 m <sup>2</sup> 6,169
不動産：構築物	4 点 2,360
長期未収入金	34,062
未収入金	229,316
短期貸付金	114 人 15,197
資産総額	31,959,875
負債額	
固定負債	
長期借入金：愛知県私学振興事業財団	34,062
長期預り金：退職金財団交付金	8,249
退職給与引当金	1,535,489
流動負債	
短期借入金：愛知県私学振興事業財団	50,649
未払金	38,390
前受金	2,525,539
預り金	167,074
負債総額	4,359,452
正味財産(資産総額-負債総額)	27,600,423